



平成 20 年 5 月 2 日

各 位

会 社 名 日本フォームサービス株式会社
代表者の役職名 取締役社長 山下 岳 英
(J A S D A Q コード番号 7 8 6 9)
問 い 合 せ 先
取締役総務部長 大海原 秀 人
TEL 0 3 - 3 6 3 6 - 0 0 1 1

平成 2 0 年 9 月 期 中 間 期 お よ び 通 期 (連 結 ・ 個 別)
業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 19 年 11 月 15 日 付 当 社 「 平 成 19 年 9 月 期 決 算 短 信 」 に お い て 発 表 い た し ま し た 平 成 20 年 9 月 期 (平 成 19 年 10 月 1 日 ~ 平 成 20 年 9 月 30 日) の 中 間 期 お よ び 通 期 業 績 予 想 を 下 記 の 通 り 修 正 い た し ま す 。

記

1. 中間業績予想

- (1) 平成 20 年 9 月 期 中 間 期 連 結 業 績 予 想 数 値 の 修 正
(平成 19 年 10 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回予想 (A)	1,225	27	26	10
今回修正 (B)	1,484	57	67	35
増 減 額 (B - A)	259	30	41	25
増 減 率	21.2%	114.6%	159.8%	257.7%
(ご参考) 前中間実績(平成 19 年 9 月 期)	1,434	26	23	22

- (2) 平成 20 年 9 月 期 中 間 期 個 別 業 績 予 想 数 値 の 修 正
(平成 19 年 10 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回予想 (A)	1,225	27	26	10
今回修正 (B)	1,482	48	57	28
増 減 額 (B - A)	257	21	31	18
増 減 率	21.1%	79.2%	120.2%	188.0%
(ご参考) 前中間実績(平成 19 年 9 月 期)	1,434	15	12	15

(3) 修正の理由

(3)-1 連結業績予想の修正について

当中間連結会計期間（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）におけるわが国経済は、設備投資の増加や雇用環境の改善により緩やかな回復基調を示してはいるものの、依然原油価格の高騰による原材料（特に鉄板等）の上昇といった厳しい市場状況により、企業収益を圧迫する結果となっております。さらに、米国のサブプライムローンに端を発した金融・資本市場の混乱により景気先行きが不透明な状況となっております。

このような状況の下、当社は採算重視を念頭に置き、選別受注を志向し、利益確保を重視してまいりました。

当社グループの中間期における業績は、順調に利益を確保しております。

セグメント別には、函物および機械設備関連事業におきましては、「19 インチラック」主体の企業体質に変わりはありませんが、付加価値の高い特注品の大型案件を幾つか取ることによって安定した利益確保ができております。さらに、昨年度より進めてまいりましたセキュリティ関連製品である「FORVICE traka」の受注が軌道に乗り順調に売上を計上し、当中間期における利益確保の一因となっております。

一方、アーム関連製品につきましては、市場的にもまだまだ堅調な需要が見込まれており、特に大型表示機分野において宣伝広告関連業界で液晶ディスプレイを使用したデジタルポスター化が進んでおります。また、バルーンアーム・モービルワークスタンド等が産業機器メーカーや医療機器メーカーにて標準採用されていること、壁掛・天吊金具等の大型関連商品については大手モニターメーカーの推奨品として取扱われていること等により、順調に売上を伸ばしております。

以上の結果、函物および機械設備関連事業における売上高は 11 億 9 千 3 百万円（前年同期比 4.1%増）となりました。利益面については、海外製品の台頭による価格崩壊や低価格化による影響は大きいものの、合理化等を継続したことにより、営業利益 6 千 6 百万円（前年同期比 18.2%増）となる見込みであります。

介護関連事業につきましては、認知症対応型共同生活介護において利用者数は 27 名に対して常時満床の状況を確認することにより安定した売上高を計上しているものの、人件費・経費等の削減は進まず利益確保は厳しい状況であります。

また、介護予防運動プログラムを取入れた通所介護サービス（「お元気クラブ亀戸」「お元気クラブえどがわ」）は順調に顧客数を増やし売上高を伸ばしております。

しかしながら、在宅介護サービスにおいて介護保険法の改正による影響により訪問介護サービス・福祉用具貸与サービス等における顧客の減少に歯止めがかからず、企業収益に大きな影響を残す結果となりました。

以上の結果、介護関連事業における売上高は 2 億 9 千万円（前年同期比 1.0%増）となりました。また、利益面につきましては営業損失 1 百万円（前年同期比 2 千万円の改善）となり、前年同期よりも確実に赤字幅は改善されておりますが、当初目標の利益確保には至りませんでした。

上記の理由により、函物および機械設備関連事業において予想以上の上期前倒し受注による売上高および利益確保により、全社売上高および利益面において増収・増益となる見込みにより、上記の通り業績見込みを修正させていただきます。

(3)-2 個別業績予想の修正について

中間連結業績予想の修正要因と同じく、売上高および利益面において前回の業績予想を大幅に上回る見込みとなりましたので修正いたします。

2. 通期業績予想

(1) 平成20年9月期通期連結業績予想数値の修正 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	2,794	81	80	36
今回修正(B)	2,794	90	90	41
増減額(B-A)		9	10	5
増減率	%	11.1%	12.5%	13.9%
(ご参考) 前期実績(平成19年9月期)	2,887	44	52	32

(2) 平成20年9月期通期個別業績予想数値の修正 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	2,794	81	80	36
今回修正(B)	2,794	81	80	36
増減額(B-A)				
増減率	%	%	%	%
(ご参考) 前期実績(平成19年9月期)	2,886	22	30	18

修正の理由

(3)-1 連結業績予想の修正について

通期業績予想については、当初より予想以上の上期前倒し受注による中間期業績修正であること、および今後さらに高騰することが予想される原油高による原材料等のコスト増になることを勘案し、子会社における当初予想以上の利益確保分のみを修正要因として、売上高については据え置きとし、利益面については上記のとおり修正いたします。

(3)-2 個別業績予想の修正について

通期業績予想については、当初より予想以上の上期前倒し受注による中間期業績修正であること、および今後さらに高騰することが予想される原油高による原材料等のコスト増になることを勘案し、売上高および利益面において前回の業績予想を据え置くことといたします。

業績予想につきましては、本資料の発表時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上